

平成27年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立雀宮南小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成27年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

平成27年4月19日(火)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語A・B, 算数A・B, 理科, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語A・B, 数学A・B, 理科, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

- | | | | |
|-------|-----|-----|-----|
| ① 国語A | 76人 | 国語B | 76人 |
| ② 算数A | 76人 | 算数B | 76人 |
| ③ 理科 | 76人 | | |

5 留意事項

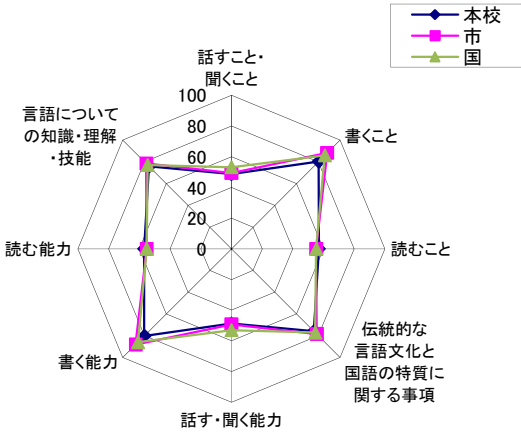
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数、理科の3教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部分であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立雀宮南小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

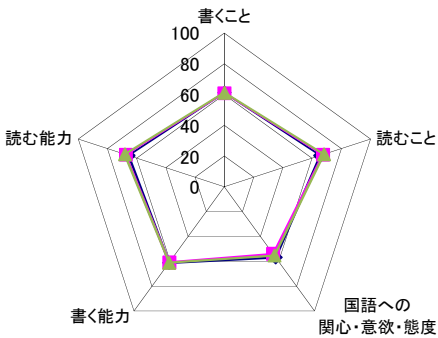
【国語A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	48.7	49.3	53.0
	書くこと	80.3	88.2	86.0
	読むこと	56.9	55.2	55.2
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	75.9	78.5	77.2
観点	国語への関心・意欲・態度			
	話す・聞く能力	48.7	49.3	53.0
	書く能力	80.3	88.2	86.0
	読む能力	56.9	55.2	55.2
	言語についての知識・理解・技能	75.9	78.5	77.2



【国語B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと			
	書くこと	61.2	60.9	61.1
	読むこと	65.6	67.4	68.1
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項			
観点	国語への関心・意欲・態度	56.9	54.0	55.4
	話す・聞く能力			
	書く能力	61.2	60.9	61.1
	読む能力	65.6	67.4	68.1
	言語についての知識・理解・技能			



★国語に関する質問紙調査の状況

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

《傾向》
○「国語が好き」と回答した児童は34.2%、「国語の勉強は大切」と回答した児童は72.4%で、「好き」が全国の肯定回答率を7.3ポイント、「大切」が6.5ポイント上回っている。「授業の内容がよく分かるか」の問いに対して40.8%、「社会に出たとき役立つと思うか」では68.4%の児童が当てはまると回答していて、全国平均の37.5%・56.5%を上回っている。
○「考えを発表する」「文章を読む」の問いに対して、肯定回答率は、全国平均より平均約5.5ポイント上回っている。また、「文章を書く問題をどう回答したか」に対して、78.9%の児童が「最後まで書こうとした」と回答していて、全国平均を1.2ポイント上回っている。
●「考えを発表する」「考えを書く」の問いに対して「当てはまらない」と回答している児童が3つの平均で8.8%おり、全国平均の6.8%に比べて低い傾向である。

★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

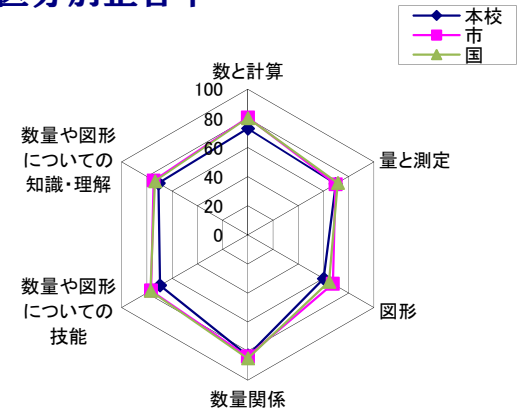
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○話の内容に対する聞き方の工夫をすることができる。 ●相手や目的に応じ明確に伝わるように話す順序や適切な言葉遣いで話すことの経験が不足している。 ●話し手の意図を捉えながら、話を聞いたり、質問したりすることに抵抗がある。	・事柄を整理して説明する活動を計画的に取り入れる。 ・話す聞くポイントの合言葉をもとに、日常的に話す聞く態度を育成する。 ・相手の意図を意識して聞き、感想や意見を述べていくような学習展開の工夫をしていく。
書くこと	○目的や意図に応じ、調べたことや考えを工夫して書くことができる。 ○情報を読み取り、内容を引用して書くことができる。 ●目的に応じ、文章の内容を的確に押さえながら要旨を捉えることが苦手な児童がいる。	・多くの資料などを参考にしながら、事実と意見を分けて書くよう意識づけた指導を行う。 ・作文や新聞作り指導の中で、意見や理由を述べて書いていく書き方を提示し、意欲を高めながら練習していく機会を多く取り入れる。
読むこと	○登場人物の意図を想像し、表現を想像豊かに読み取り、その背景や情景をイメージすることができる。 ●事実や意見の関係を押さえ、考えたことを具体的な言葉で表現したり、説明したりすることに習熟が望まれる。	・音読指導を今後も継続していく。 ・目的に応じて本や文章を読み、文章の構成、書き方についての言語活動を取り入れる。 ・登場人物の様子や情景描写・心情をとらえる指導を今後も継続していく。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○漢字を読むことに関心をもち、その意味や使い方を理解している。 ●漢字を書くことに個人差があり、十分に理解している児童も多いが、一方で漢字に苦手意識をもつ児童が見られる。	・漢字を正確に読み書きできるようにするために、ドリル学習や自主学習の量を確保し、意識的に漢字を使用できるように日常的な指導を行う。 ・朝の学習のテストを利用し、既習漢字を繰り返し書く機会を設ける。 ・漢字の復習を定期的に行い習熟を図るとともに、熟語や文章で練習していく。

宇都宮市立雀宮南小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

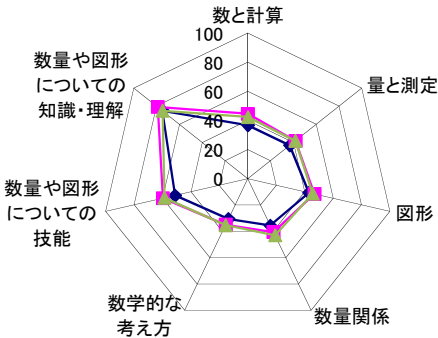
【算数A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と計算	72.9	80.7	80.1
	量と測定	69.7	69.6	71.3
	図形	60.2	67.4	64.5
	数量関係	82.9	83.7	84.9
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方			
	数量や図形についての技能	69.7	76.8	77.2
	数量や図形についての知識・理解	70.9	74.8	73.6



【算数B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と計算	36.8	44.6	42.4
	量と測定	36.8	41.8	41.7
	図形	43.0	46.8	45.6
	数量関係	35.5	40.6	43.0
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方	30.6	34.9	35.3
	数量や図形についての技能	51.3	59.8	58.7
	数量や図形についての知識・理解	75.0	79.1	74.9



★算数に関する質問紙調査の状況

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

《傾向》
○「算数の勉強が好き」「どちらかといえば好き」と回答した児童は72.4%で、全国の肯定回答の66.6%を5.8ポイント上回っている。「算数の授業で学習したことは将来役に立つと思う」「どちらかといえば役に立つ」と回答した児童は94.7%で、全国の肯定回答の90.3%を4.4ポイント上回っている。
●「算数の勉強は大切だと思う」「どちらかといえば大切」と回答した児童は92.1%で、全国の肯定回答の93.1%を1.0ポイント下回っている。
○「授業で新しい問題に出合ったとき、それを解いてみたい」「どちらかといえば解いてみたい」と回答した児童は81.6%で、全国の肯定回答の77.5%を4.1ポイント上回っている。「算数の授業で学習したことが生活の中で活用できるか考える」「どちらかといえば考える」と回答した児童は71.1%で、全国の肯定回答の67.7%を3.4ポイント上回っている。
●「問題の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考える」「問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考える」の問いに対して、「当てはまらない」「どちらかといえば、当てはまらない」と回答した児童は、全国に比べて高い割合になっている。

★指導の工夫と改善

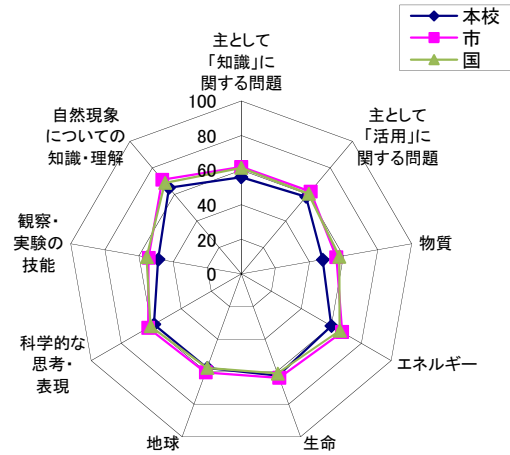
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○加法における計算の確かめの方法は理解できている。 ●分数の除法の計算、末尾の位のそろっていない小数の計算が理解できていない。 ●四捨五入や切り上げをして、およその数に表し計算することが苦手である。	・分数や小数の計算の仕方を再確認し、繰り返し練習を積み上げていく。 ・概数の意味を理解し、目的に応じて数を手際よくとらえたり処理したりすることができるように、問題を繰り返し練習し習熟を図る。
量と測定	○分度器の使い方については理解できている。 ●示された図形を基に、面積が等しくなる理由を記述するなど、記述式の問題に弱い傾向が見られる。	・話し合い活動などを通じて、根拠となる事柄を過不足なく説明する指導の充実を図る。
図形	○平行四辺形の性質を理解し、平行四辺形を構成する辺の組み合わせや作図の方法が身に付いている。 ●円について、中心・半径・直径の意味や、半径と直径の関係などの円の性質を理解できていない。	・作図の基本は理解している児童は多いので、図形の性質と操作とを関連付けて理解するようにしていく。
数量関係	○グラフに表されている事柄を読み取ることや式で表現された数量の関係については理解することができている。 ●示された情報から、比較量と割合から基準量を求める問題が苦手である。	・問題の状況を丁寧に読み解き、その関係を図や数直線等に表して捉えられるようにし、さらにそれをもとに式を立てられるように問題演習を繰り返す行う。

宇都宮市立雀宮南小学校 第6学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
枠組み	主として「知識」に関する問題	56.0	61.9	61.3
	主として「活用」に関する問題	58.2	62.2	60.5
区分等	物質	47.7	55.7	57.4
	エネルギー	60.1	67.2	65.6
	生命	62.5	63.8	61.2
	地球	57.7	60.5	57.8
観点	自然現象への関心・意欲・態度			
	科学的な思考・表現	58.2	62.2	60.5
	観察・実験の技能	48.7	54.4	55.5
	自然現象についての知識・理解	65.1	71.1	68.6



★理科に関する質問紙調査の状況

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「将来、理科や科学技術に関係する職業に就きたいと思う」「どちらかといえば就きたい」と回答した児童は35.5%で、全国の肯定回答の28.8%を6.7ポイント上回っている。

●「理科の勉強が好き」「どちらかといえば好き」と回答した児童は80.2%で、全国の肯定回答の83.5%を3.3ポイント下回っている。また、「理科の勉強は大切だと思う」「どちらかといえば大切」と回答した児童は79%で、全国の肯定回答の86.9%を7.9ポイント下回っている。

○「理科の授業で学習したことが生活の中で活用できるか考える」「どちらかといえば考える」と回答した児童は71.1%で、全国の肯定回答の69.3%を1.8ポイント上回っている。

●「自分の考えをまわりの人に説明したり発表したりする」「自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てている」「観察や実験の結果から、どのようなことがわかったか考えている」の問いに対して、「当てはまらない」「どちらかといえば、当てはまらない」と回答した児童は、全国に比べて高い割合になっている。

★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質	○結果を見通して実験を構想することができる。 ●水の三態変化について理解できていない。 ●メスシリンダーで一定量の水を測り取る技能が身に付いていない。	・観察、実験器具を繰り返し操作する機会を設け、実験や観察に使用する実験器具の正しい使い方についての習熟を図る。 ・水の状態変化などをいろいろな場面で適用できるようにするため、日常生活の現象と関係付けて定着を図る。
エネルギー	○おもりを使い、おもりの重さや糸の長さなどを変えて振り子の動く様子を調べ、振り子の運動の規則性について理解することができる。 ●電磁石の性質や働きを理解できていない。	・自然の性質や規則性を適用したものづくりを行い、学習で身に付けた知識・技能を活用できるようにする。 ・日常生活に見られる自然の事物・現象について学習で身に付けた科学的な言葉や概念を使用して考える機会を設定する。
生命	○メダカの雌雄を見分ける方法が理解できている。 ○植物の成長と条件について理解し、適した栽培場所に適用して考察することができる。 ●顕微鏡の適切な操作方法が身に付いていない。	・観察、実験器具を繰り返し操作する機会を設け、実験や観察に使用する実験器具の正しい使い方についての習熟を図る。
地球	○月や星の特徴や動きについて理解できている。 ●水が水蒸気になる現象について、科学的な言葉や概念が理解できていない。	・実験で得られた結果だけではなく、自然の事物・現象の様子と関係付けながら考察して、分析したことを言葉でまとめる学習活動を設定する。

宇都宮市立雀宮南小学校第6学年児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

- 「学校は楽しいか」という質問に対して「楽しい」と回答した児童の割合は全国肯定回答を2.6ポイント上回っている。
- 「国語が好き」と回答した児童は34.2%で、全国の肯定回答率を3.6ポイント上回っていた。また、「算数が好き」と回答した児童は 36.2%で、2.9ポイント上回った。本校の児童は、国語科・算数科が好きという傾向にある。
- 「国語の授業の内容がよくわかる」と回答した児童が40.8%で、全国を3.3ポイント上回った。
- 「ものごとを最後までやりとげてうれしかったことがあるか」の問いに、82.9%の児童があると回答している。また、「失敗を恐れないで挑戦しているか」の問いに対して、38.2%の児童が「当てはまる」と回答していて、全国平均を10ポイント・2.6ポイント上回っている。
- 「将来の夢や目標をもっているか」の問いに、77.6%の児童が「ある」と回答しており、全国平均を7.1ポイント上回っている。自分の描く目標や夢をしっかりとって学校生活を送っている児童が多いことがわかった。

●家庭学習の時間が少なく、テレビやDVDを見るの時間が全国平均より長いという傾向がみられる。

●「人の気持ちが分かる人間になりたいと思いますか」の質問に対しての肯定回答率は67.1%で、全国平均を5ポイント下回っている。今後は、教育活動あらゆる場を捉えて指導をし、今よりもきまりを守り、思いやりをもって行動できるようにしていきたい。